

「ファシリテーション」について学ぶ

上越市議会では、外部から講師を招いているいろいろなスキルや見識を学ぶ「議員勉強会」を定期的に行っています。

先月はF&Cヨシザキ代表取締役の吉崎利生氏を招き、「ファシリテーション」について学びました。

「ファシリテーション」とは、組織やメンバーを活性化させ、協働を促進させるリーダーの持つ能力のひとつです。会議等の場で発言を促したり、話の流れを整理したり、参加者の認識の一致を確認したりして、合意形成や相互理解をサポートする力です。

この日は、相手の話をたくみに引き出す話し方を体験したり、実際にテーマを設けて話し合い、意見を整理しながらホワイトボードに書き入れて内容を深める「ホワイト

ボードミーティング」を体験したりして、実践的に学びました。

日常的に行っている「話し合い」や「会議」も、一定のスキルをもって臨むことで、中身をさらに充実させることができることを学びました。



リスクシナリオに原発事故なし？！

国土強靱化地域計画案を審議 災害対策特別委員会

4日、市議会災害対策特別委員会（橋爪法一議員が副委員長として所属）が行われ、市の国土強靱化地域計画案が審議されました。

「いかなる災害が発生しようとも、人命の保護が最大限図られ、被害の最小化を図り、迅速な災害復旧が行われる」ことを目標にした計画です。

この計画は、今年4月からの2か年計画で、45の「起きてはならない最悪の事態（リスクシナリオ）」をベースに、考え得る42項目についての対応方針を盛り込んでいます。ところが、これらのリスクシナリオには、市民の誰もが心配している原子力災害が入っていません。

そこで、橋爪議員や近藤彰治議員がその点を指摘しました。

これに対して防災危機管理部長は、「当然入れていかなければならない課題だが、具体的な対策が見えていない中で具体的なアプローチまで至っていない」と答えました。

しかし、具体的な対策が立案できていない段階であっても、ごく近くに原子力発電所があることを考えると、何らかの文言を書き込むべきではないでしょうか。

また、橋爪議員は、「総合計画との関係で2か年計画にしたというが、全体としてどのような計画であ



るのかが明確でない。財政計画との整合性も必要だ。事業費は総額でいくらになるのか」とただしました。

防災危機管理部長は、「今計画には長期的視点のものも入っている。計画は2年で終わるものではなく、今後の計画もまずここに載せて、2年後に見直す。事業費は積み上げていない」と答えました。

この計画案策定の目的は「国庫補助金の獲得」とのことですが、より大事なことは、市民の安全・安心に繋がるわかりやすく実効性ある計画にするということです。今後の注視が必要です。

原発事故 屋内退避での被ばくリスク 積雪で高まるおそれ

原発から30km圏内では、万が一の事故の際は、屋内に退避することが原則です。しかし、積雪があると、屋内退避では放射線被ばくのリスクが高まる危険性があることが指摘されています。

指摘したのは、原発事故の際の避難方法を検証している県避難委員会の委員である山澤弘実名古屋大学教授です。

図のように原発事故で放出された放射性

物質が雪に付着して屋根などにとどまると、木造の屋根などは放射線をさえぎる力が弱いので、その屋根を通して屋内に向かう放射線量が高いままになってしまうということです。

これへの対応策はまだ未知の段階です。こうしたことを含めて、安全に避難でき、被ばくしないことが担保される方策が必要です。（図などは2月7日付新潟日報より）



上越保健所管内感染症発生状況 (2月5日現在)

PCR検査実施件数 4894件(前週+203)
 感染症患者数 43人(上越市内39人)
 陽性率 0.88%

日本共産党上越市議員団ニュース No.694 2021年2月14日

連 橋爪 法一 090-5392-1961(吉川区代石)
 絡 上野 公悦 090-7260-9407(頸城区中柳町)
 先 平良木 哲也 090-1808-6919(上中田(金谷区))